

附属小 話す・聞く

[学習案]

双方向に聴き合い・話し合うことを楽しむ

上越教育大学学校教育学部附属小学校 古閑 晶子

1 単元名 お話ボールラリーをしよう 「チャレンジラリーで見つけたよ」

2 学 級 上越教育大学学校教育学部附属小学校 2 学年 2 組

3 単元の特性

本単元の特性として、次の三つが挙げられる。

一つは、総合単元活動（チャレンジラリー）と関連することにより、子供たちの必然として言語活動が行われることである。ボールに見立てた厚紙に、体験した具体的場面を話題として書き込むことにより、二人で一つの話題を選択し、話の内容を意識しながら主体的に聴き合い・話し合うことができる。また、ゲーム性のあるラリー盤を提示することで、やってみたいという意欲とともに、聴き合い・話し合うことそのものに関心を抱くようになる。受けて返す度にラリー盤のボールを動かすので、話をつなぐということを視覚的にイメージでき、二人で聴き合い・話し合うことを楽しむことができる。

二つは、実際の対話と対話例を比較することにより、話題に沿って話を楽しく続ける方法を発見することができるということである。二つの対話例（共感的・非共感的）のビデオテープを作成し、そこから子供が聴き合い・話し合うことの楽しさを共有できる方法を発見する。また、「受けて返す言葉」を吹き出しカードに書いて提示し、具体的な言葉を収集することで、対話をつなげる方法はより具体化するものと考ええる。ビデオの視聴と実際の対話を段階を追って繰り返すことで、自己の意識の変容を促すことができると考える。

三つは、二人が対話し、一人がアドバイスや評価を行うという鼎談の形態をとることにより、互いの良さや楽しさを認め合ったり、対話を振り返ったりする意識が生まれることである。客観的立場にいる三人目は、対話が止まってしまったときに、話題について一緒に考えアドバイスしたり、対話終了後に良いところを見つけた賞状形式のカードを渡したりする役目を担う。このように、客観的立場にいる第三者を学習材として生かしていく。

4 単元の目標

- 1) チャレンジラリーで体験したことの中から話題を選び、話題に沿って二人で楽しく代わる代わる聴き合い、話し合おうとする。
- 2) あいづちを打ち、尋ねながら聴き合ったり、したことや感じたことが分かるように話し合ったりする。

5 単元の展開 (全3時間)

- ・「チャレンジラリー」についてお話ボールラリーをしながら、対話のイメージをもつ。
- ・お話ボールラリーが楽しく続くための方法に気付く。(本時)
- ・話題を選択し、話題に沿って楽しくお話ボールラリーを続ける。

6 本時の目標

- ・自分の対話とビデオの対話を比べることにより、話題に沿って対話をつなげる方法に気づき、相づちを打ったり、尋ね返したりしながら楽しく聴き合い・話し合う。

7 本時の展開 (本時 2 / 3 時)

学習内容	学習活動	指導上の留意点	総合単元活動
1 自分の課題を見つける。	○話題を選んでお話ボールラリーを行い、対話が続いた理由や途切れた理由に気付く。	・実際に対話しながら、前時にビデオ1で発見した点の掲示を見て、自分の課題を見つけるよう助言する。	・チャレンジラリーのポイントを見つける。 (本時と関連)
2 話題に沿って、話をつなげる方法に気付く。	○ビデオ2(共感的)を見て、真似したいところを発見する。	・「相手を見てうなづく、気持ちのいい相づちを打つ、話題に沿って尋ね返す、尋ねられたことに応える」等に気付くように、ビデオ2を活用したり、「受けて返す言葉」の吹き出しを掲示したりする。	・各自で見つけたポイントやコースを紹介し合う。
3 お話を続ける。	○話題を選び、対話を意識しながら、お話ボールラリーを行う。	・対話をつなげたり、うに、第三者のアドバイザーに賞状カードを配布する。	・チャレンジラリーのポイントやコースを考える。
4 話題について、感想を書く。	○話題について、感じたことを書く。	・書き終わったら、読み合うようにする。	・各班でポイントやコースを計画する。 ・チャレンジラリーを行う。